２０２２年２月１日

**第６９回鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会**

**新型コロナウイルス感染症禍における運営および感染予防対策マニュアル**

鹿児島県

鹿児島市

鹿児島県教育委員会

鹿児島市教育委員会

鹿児島陸上競技協会

南日本新聞社

新型コロナウイルス感染症の収束がいまだ見通せないなか、２０２２年２月に予定している「第６９回県下一周市郡対抗駅伝競走大会」の開催にあたり、日本陸上競技連盟の「ロードレース再開についてのガイダンス」（２０２２年１月６日改訂版）をはじめ、スポーツ庁や日本スポーツ協会のガイドラインなどに沿い、主催者のみならず、参加する１２チームの選手やスタッフをはじめ全ての大会関係者が感染リスクを理解し、細心かつ最大の配慮を払いつつ、大会の特殊性を踏まえ、開催に向けて尽力するものとする。

このマニュアルにおける大会関係者とは、１２チームの選手、監督、コーチ、マネジャー、監察員ら（以下「選手・スタッフ」と記す）のほか、大会に帯同する競技役員、鹿児島県警察職員、各自治体職員、南日本新聞社社員、医師、警備員、中継所審判員、自主交通整理員、車両ドライバー、取材メディア、来賓らを対象とする。

**１　基本的な考え**

鹿児島県や国内各地の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、万全で適切な感染防止対策を講じながら、例年どおりの規模、日程で開催する。

　本大会は２０２２年２月１９日（土）～２３日（水・祝）の５日間とし、県内５８３．７㌔のコース（５３区間）で行う。

感染防止の徹底を図るため沿道での応援は自粛を呼びかける。

運営にあたっては密集・密閉・密接の「３密」回避を徹底する。

会場計画ではフィジカルディスタンスを確保する。

感染者、濃厚接触者、感染疑い者、体調不良者を大会に参加させないよう、選手・スタッフをはじめ大会関係者の健康管理を徹底する。

地区ごとに感染状況や医療体制など諸事情が異なることを考慮し、大会参加の判断は各チームに委ねる。

**２　開催の前提条件**

１）鹿児島県内に「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発出された場合、大会主催者は関係機関の意見や助言等を踏まえて協議し、大会の会期短縮や中止を含め、開催可否を判断する。

２）上記「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発出され、課される行動制限下で大会を開催する場合、選手・スタッフへ対しＰＣＲ検査等（抗原検査含む）での陰性確認を行う。検査は原則として、大会に参加する日の３日前以降に１回のみとする。但し、検査予約が取れない、結果判明まで時間がかかる、などの理由による場合、５日前以降でも可とする。

　　検査結果の確認は、対象者本人が行うだけでなく、所属チームや派遣元の組織において第三者確認を行う。

　　検査結果通知は、各チームの監督もしくは健康管理責任者が、別途配布する「ＰＣＲ検査等報告書」にまとめ、大会１日目の朝の監督会議で、大会主催者へ提出する。なお、検査結果通知は大会終了まで各チームで保管する。

３）鹿児島県から開催が認められ、コースを通過する県内２４市町に大会開催が周知されている。

４）ゴール地点となる鹿児島市、南さつま市、出水市、霧島市、鹿屋市で新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整っている。感染者および感染疑い者が発生した場合に対応可能な医療機関が事前に定められている。

５）鹿児島県やコースを通過する県内２４市町の医療のひっ迫状況を保健所に確認の上、新型コロナウイルス感染症について保健所へ事前に相談する。

６）全ての大会関係者の連絡先を把握し、健康管理体制が整っている。

**３　感染症予防の基本指針**

１）氏名、連絡先、健康状態を記入した「体調管理チェックシート」の事前提出、事後記録

　２）マスクの持参、着用

　３）検温の実施

　４）手指の消毒

　５）三密（密閉、密集、密接）の回避

**４　感染症対策室の設置**

本大会における「新型コロナウイルス感染症対策室」を南日本新聞社営業局事業部に設置する。

構成員は、大会会長である南日本新聞社の佐潟隆一・代表取締役社長をはじめ、運営にあたる原田茂樹・営業局事業本部長、内立元正嗣・営業局事業部長のほか、大村一光・鹿児島陸協理事長、鹿児島陸協が依頼した医師らとする。

感染症対策室は、関係自治体や保健所と連携しながら感染予防対策を行い、関係者への周知・啓発を行う。また感染症対策の意思決定機関として機能し、行政及び日本陸上競技連盟などの窓口となる。

大会期間中の５日間、鹿児島陸協が依頼した医師１人が、個人防護具（フェイスシールド、使い捨てエプロン、使い捨て手袋、マスクなど）を準備し、レースに帯同する。

|  |  |
| --- | --- |
| 新型コロナウイルス感染症対策室 | |
| 感染症対策責任者 | 大会会長　佐潟　隆一 （南日本新聞社代表取締役社長） |
| 事務局 | 南日本新聞社営業局事業部 TEL：099(813)5053 |

**５　感染者・濃厚接触者・感染疑い者の対応**

１）**大会期間中**

選手・スタッフをはじめ大会関係者に、ＰＣＲ検査もしくは抗原検査で陽性反応が確認された「感染者」が出た場合、主催者は関係機関の意見や助言等を踏まえて協議し、必要に応じて大会の中止等を判断する。

選手・スタッフをはじめ大会関係者に、保健所から「濃厚接触者」と認められる者が出た場合、当該者の出場・参加を認めない。また、「感染疑い者」が出た場合、当該者の出場・参加を認めない。感染疑い症状とは、息苦しさ（呼吸困難）、強いだるさ（倦怠感）、発熱（３７．５度以上）等の強い症状のいずれかがある場合とし、大会に帯同する医師に相談し判断をあおぐ。

２）**大会前**

選手・スタッフをはじめ大会関係者に「感染者」「濃厚接触者」「感染疑い者」が出た場合、以下の対応をする。

【感染者】

大会３週間前、もしくはそれ以降に、ＰＣＲ検査もしくは抗原検査で陽性反応があった選手・スタッフをはじめ大会関係者は出場・参加を認めない。

【濃厚接触者】

保健所から濃厚接触者と認められた選手・スタッフをはじめ大会関係者は、１０日間にわたり健康状態を観察する期間を終了していない場合、出場・参加を認めない。

【感染疑い者】

大会３週間前、もしくはそれ以降に、感染疑い症状が発症した選手・スタッフをはじめ大会関係者は、感染疑い症状の発症後少なくとも８日（発症日を０日として８日間）が経過し、且つ、薬剤を服用していない状態で解熱後および症状消失後に少なくとも３日（発症消失日を０日として３日間）が経過している場合は出場・参加を認める。

**６　感染症発生時の対応**

感染症対策室は、参加者から感染者が出た場合の対応方針について、鹿児島県と鹿児島市の保健衛生部局と事前に検討する。

大会終了後の２週間を健康観察期間とし、その間に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、本人かチームの監督が感染症対策室事務局に速やかに報告する。

感染者が出た場合、大会主催者は鹿児島県（鹿児島市内での発生は市）の保健衛生部局に連絡し、指示に従う。また、日本陸上競技連盟に報告する。

感染症対策室は、鹿児島県や鹿児島市、各保健所と連携しながら、感染に関する公表内容を決定する。その際、感染者が不当な差別や偏見にさらされないよう個人情報の保護に留意する。



**７　沿道対策**

大会主催者は大会前から、県民に対して応援自粛を呼びかける広報を新聞紙上で行い、大会期間中は広報車から応援自粛を呼びかける。

選手・スタッフが所属する企業・団体に対して応援自粛を要請し、各地区の担当者を通じて周知を徹底する。

沿道に近い幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校、老健施設などには、応援自粛をお願いする文書を発送する。

観戦できないファンのため、ＳＮＳ等を利用した情報発信を充実させる。

大会当日、沿道にいる方々に対しては、近くにいる交通整理員が状況に応じてマスクの着用をお願いし、大声での応援を控えること、フィジカルディスタンスを確保することなどを呼びかける。また、自宅や事務所などに帰ったら必ず手洗いやうがいを徹底すること、新型コロナウイルス接触確認アプリ「ＣＯＣＯＡ」を積極活用することを呼びかける。

**８　健康管理**

１２チームの選手・スタッフをはじめ全ての関係者は、「自分は症状がないから大丈夫」ではなく、「もしかしたら自分もかかっているかもしれない」という意識を持って行動する。

また大会前や大会期間中、うがい、手洗い、手指消毒を励行し、マスク着用を徹底して感染防止に努める。

大会３週前から外食や飲酒を伴う会合等への出席は極力控える。

関係者のうち６５歳以上の者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている等）を有する者は、感染に伴い重症化するリスクが高い旨を認識した上で参加してもらう。

ワクチン接種については、特別な事情があって接種できない人を除き、大会２週間前までに２回目の接種を終えること。ただし、接種の有無で不利益を被ることがないよう、大会主催者は十分な配慮を行う。

全ての関係者から大会前と大会後、感染予防対策を目的に各種情報（氏名、連絡先、健康状態）を「体調管理チェックシート」により取得する。その際、必ず同意を取る。取得した情報は、万一感染者が発生した場合など、保健所、医療機関、日本陸上競技連盟など第三者へ対し提供することがある。情報は大会終了後少なくとも１カ月間、保管する。

【選手・スタッフ】

大会１週間前から大会期間中にかけて、「体調管理チェックシート」に健康状態を記入し、各チームの監督もしくは健康管理責任者が管理する。各チームは選手・スタッフの「体調管理チェックシート」を確認して「提出用　体調管理報告書」にまとめ、大会前日の監督会議や期間中の朝の監督会議で、大会主催者へ提出する。

大会終了後は２週間、「体調管理チェックシート」を記入する。もし医療機関に相談・受診の目安に該当するような症状が発生したら、感染症対策室事務局に必ず連絡する。

「体調管理チェックシート」が提出されない、または適切に健康管理がなされていないと大会主催者が判断した場合、大会への出場・参加を認めない。

【その他の関係者】

参加する日の１週間前から大会期間中にかけて、「体調管理チェックシート」に健康状態を記入し、大会１日目の朝、大会主催者へ提出する。なお、派遣元の組織や募集した各自治体において健康管理責任者が健康管理情報を集約し、大会主催者に報告する形でも構わないものとする。

参加後は２週間、「体調管理チェックシート」を記入する。詳細は選手・スタッフに準じる。

「体調管理チェックシート」が提出されない、または適切に健康管理がなされていないと大会主催者が判断した場合、大会への参加を認めない。

**９　大会運営**

【開・閉会式】

「３密」を回避するため、開・閉会式は中止する。

【監督会議】

監督会議は例年どおり行うが、出席人数を精選し極力１人となるよう努める。

【スタート地点・中継所・フィニッシュ地点（ゴール含む）】

密集・密接を回避するため、コーンやポールなどでエリアを定め、関係者以外は入らないようにする。

中継所の要員は、中継所審判員や本部審判員、荷物管理・運搬係員に限定する。

エリア内に立ち入るときは、検温と手指消毒を行う。

エリア内では、フィジカルディスタンスを確保した会場計画を行い、マスク着用の徹底と会話をしない注意喚起を徹底する。なお選手は出走直前（１分前）までマスクを着用し、外したマスクは選手が管理する。

書類の受け渡しなど対面でのやり取りが必要な場所にはパーティションを設置する。

選手の待機所やスタッフが滞留する箇所には可能な限り消毒液を用意する。

手洗い後の手拭き用に使い捨てペーパータオルを用意する。布タオルは使用しない。

中継所やフィニッシュ地点で倒れ込んだ選手のケアは、個人防護具（フェイスシールド、使い捨てエプロン、使い捨て手袋、マスクなど）を整えた関係者で対応する。

湯茶・接待は行わない。

もし観客が近くにいた場合、状況に応じて関係者がマスクの着用をお願いし、大声での応援を控えること、フィジカルディスタンスの確保などを呼びかける。

【給水】

レース中の給水は原則としてペットボトルを使用する。選手に手渡すスタッフは事前の手洗い、手指消毒など衛生管理を徹底する。

【更衣室】

更衣室は従来の施設を使用するが、換気に配慮して密閉状態を避けるともに、長時間の滞在を控えることに留意する。

【配収バス】

中継所への配置・収容するバスに乗車する選手は、定員の２分の１程度とし、当日の出走に関係ない選手は配収バスの利用を禁止する。

乗車予定者名簿は、前日午後の監督会議のときに提出し、あらかじめ座席の調整を行って対応する。

【ごみ処理】

飲み残しの飲料、食べ残しの弁当、使用後のティッシュ等のごみは、自己の責任で処理する。原則、持ち帰りとする。

【その他】

　１２チームは検温器、マスク、消毒液を携帯する。

選手は、競技中（レース、ウオーミングアップ）以外はマスクを着用する。

使用したマスクはウイルスが付着する可能性があるので、各自持ち帰り廃棄する。

関係者が中継所等に移動して任務にあたる場合、携帯用の消毒剤を携行してリスク軽減に努め、相互及び自身の安全確保に留意する。

**10　宿泊の対応**

１２チームの選手・スタッフをはじめ大会関係者の宿泊は、必要最小限にとどめる。

１室１人使用を基本とし、２人以上となる場合は室内では極力マスクを着用する。

【選手・スタッフ】

出走地への移動は自宅から行うことを原則とする。

　県本土に自宅等の宿泊場所がない離島チームの選手・スタッフは、自宅等に替わる拠点として鹿児島市などに宿泊所を設け、そこから出走地へ移動することを原則とする。

もし出走地近くに宿泊が必要な場合は、翌日１～４区の走者と最小限のスタッフとする。宿泊施設に限りあるときは、遠方からのチームを優先する。

宿泊施設での食事は、チーム専用で会場を使用できるか検討する。

食事の際、黙食、席の間隔を取る、向かい合わせに座らない、時間をずらすなどの策を講じ感染防止に努める。

宿泊施設での会議などは「３密」に配慮し、少人数・短時間で行うよう留意する。

また夜間の外出や関係者以外の人との接触を極力控える。

【その他の関係者】

　選手・スタッフを除く大会関係者の宿泊は、大会運営上、必要な場合に限る。

　宿泊施設での食事、会議における留意点は、選手・スタッフに準じる。

**11　取材への対応**

大会主催者は、各報道機関向けの取材要項を作成し、メデイアの履行義務事項（大会１週間前の体調管理・検温の義務、「体調管理チェックシート」の提出、および大会終了後２週間の体調管理・検温の実施、「体調管理チェックシート」の記入）などを盛り込む。

取材者の人数を事前に報道各社と取り決める。

報道各社との取り決めに基づき、対象の取材者の「体調管理チェックシート」の提出を求める。

取材者は取材前に検温と手指消毒をする。取材者は取材する際は必ず、マスク、腕章、大会主催者が配布するリストバンドを着ける。

**12　保険**

大会主催者は傷害保険に加入する。補償内容は、大会関係者が大会に参加中（所定の集合地で責任者の管理下に入ったときから、解散するまでの間）に急激かつ偶然な外来の事故によってケガをした場合、保険金が支払われる。但し、疫病（新型コロナウイルス感染症など）は対象外となる。

**13　その他**

　大会主催者は、１２チームの選手・スタッフをはじめ関係者の感染に対するいかなる責任も負わない。